

TOMOYA PRESS

山本ともや議会活動報告

Vol.01
2019.08

ごあいさつ

平成から令和へ、新たな時代がスタートしました。新元号「令和」という言葉は、日本最古の歌集「万葉集」の「梅花の歌」から採用されています。

『初春の令月にして、気淑（よ）く風和ぎ、梅は鏡前の粉（こ）を披（ひら）き、蘭は珮後（はいご）の香を薰（かをら）す。』

春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたいとの願いが込められています。

そして、4月7日に投開票が行われた青森県議会議員選挙におきまして、9,519票をいただき、初当選を果たすことができました。昨年末に、むつ市役所を退職し、政治の道を志してから、これまでたくさんの激励のお言葉とみなさまからの温かい御支援を賜り、平成最後の日（4月30日）に県内で一番若い青森県議会議員として就任しました。私の掲げた「想いをつなぐ」政治の実現に向けて、このまちに暮らす一人ひとりの想いを県政につなぎ、下北のみなさま一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができるよう、下北の課題に対して全力で取り組んで参ります。

最後に、私は政治とは「つないでいくもの」だと思っています。初心を忘れず、一人ひとりの声に耳を傾けて、一人ひとりを大切にして、夢と希望をもって暮らせる下北を目指してまいります。日本の四季折々の文化を、次の世代に引き継ぐという思いが込められた「令和」の時代にふさわしい政治家として、みなさまとともに新しい時代を創っていきたいと思います。今後ともより一層の御支援、御指導賜りますようお願い申し上げます。

青森県議会議員

山本 知也



県議会初登庁

やま もと とも や 山本 知也 Profile

生年月日：昭和58年2月19日生（むつ市出身）

学歴：奥内小学校、近川中学校、
田名部高校卒（陸上部）
法政大学経営学部経営学科卒

職歴：平成18年 むつ市役所採用
(教育委員会)
平成30年 むつ市長秘書

地域活動：むつ市県民駅伝チーム 監督
むつアスリートクラブ コーチ

家族：妻、子ども3人

県議会：商工労働観光エネルギー委員会
議会運営委員会
原子力・エネルギー対策特別委員会
議会改革検討委員会



当選後も街頭活動継続中



8月31日現在 合計217回目



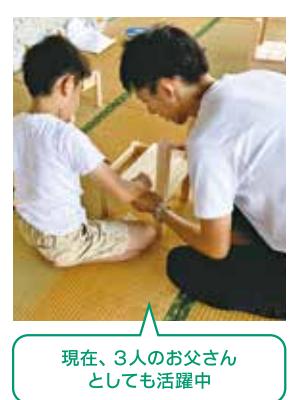
むつ市
中央交差点



むつ市苦生交差点



むつ市大畠サクラロード



現在、3人のお父さん
としても活躍中



Topics

青森県議会について、地域からの声、
青森県議会レポート（県内調査報告・常任委員会質疑）、日々のレポート ほか



青森県議会について

令和元年5月第94回臨時会（5月13日～15日）が開催されました！

青森県議会議員が初招集され、議長副議長の選任、議席の指定、委員会などが決定しました。

所属会派	自由民主党（30人）
常任委員会	商工労働観光エネルギー委員会 (所管事項) 商工労働部、観光国際戦略局、エネルギー総合対策局及び労働委員会の所管に属する事項
特別委員会等	議会運営委員会 (次の議会の会期、議案等の取扱いその他議会の運営に関する事項及び議長の諮問に関する事項) 原子力・エネルギー対策特別委員会 (原子燃料サイクル事業の諸課題に関する事項) 議会改革検討委員会 (議会の効率的・効果的運営に係る改革に関する事項)



地域からの声

国道279号の歩道について

むつ市金谷沢町内会から国道279号の歩道について、子供達が登校する際に傘を差して歩いていると、車にぶつかるほど狭いとの声をいただきました。

金谷沢町内会泉谷会長とともに、県及び市の担当者と現地を確認し、地域のおもいを届け、改善いただきました。



改良前

現地視察

改良後



県内調査報告



地域活性化に向けた
コワーキングスペース視察



下北ワインの
産学官金連携の取組視察
サンマモルワイナリー



風間浦下風呂地区地熱開発
地熱資源開発の
試掘調査現場視察



文化財を活用した
観光振興の取組視察
函館市縄文文化交流センター



青森県議会レポート

県議会は、定例会などが開かれていらない時も、委員会における毎月の特定付託案件（常任委員会所管の課題等）や請願等の審査を通じ、県民の意見・要望を県の仕事に反映させるための活動をしています。

閉会中の主な活動としては、委員会や議員個人による県内外の先進施策等の調査、国等に対する陳情・要望、各種会議等への出席、情報交換などがあります。

常任委員会質疑 商工労働観光エネルギー委員会

令和元年5月質問 原子力立地対策について

質問が地元紙に
取り上げられました!!

(背景) 青森県は原子力関連施設の立地及び周辺市町村における地域振興と地域住民の安全確保等を図るため、当該市町村に対して、青森県核燃料物質等取扱税交付金を交付しています。東日本大震災から約8年が経過し、関連施設の長期停止や操業の遅れで、地元自治体の財政運営も非常に厳しい状況となっています。県の核燃料物質等取扱税の増収等に応じた市町村への交付額の見直しについて、県の認識を伺いました。

山本

市町村の財政が厳しい状況の中、この度、改正された核燃料物質等取扱税交付金交付要綱の改正内容について伺いたい。

原子力対策課長

今年度からは、本年4月に更新された青森県核燃料物質等取扱税条例に合わせ交付金制度を継続するとともに、安定的な制度とするため定額30億円とする改正を行なった。

山本

核燃税を課税している都道府県を調べたところ、福井県が税収の40%、静岡県が23%、宮城県、茨城県、新潟県、島根県が税収の20%を市町村へ配分している。青森県を見ると約16%の配分であり、立地、周辺市町村への配分が全国でも一番低い状況。核燃料物質等取扱税の増収等に応じた市町村への交付額の見直しについて、県の認識を伺いたい。

原子力対策課長

県としては、交付総額を維持して同制度を継続することとし、今後、環境変化があった場合には、見直しについて検討することとしている。長期間の運転停止などにより、立地地域の地域経済が停滞していることに対して、県も重く受け止めている。国策である原子力政策について、引き続き立地地域の実情に即した地域振興対策が実施されるよう機会を捉えて国・事業者に求めていきたいと考えている。



令和元年6月質問 インバウンド対策について

(背景) 2018年の訪日外国人旅行者数は過去最高の3,119万人となり、日本は2020年に4,000万人、2030年に6,000万人とする目標を掲げて取り組みを進めています。本県においても、2018年の外国人延べ宿泊者数が38万人泊と過去最高を更新している状況です。インバウンド対策について、県の認識を伺いました。

山本

国全体、そして本県も過去最高を更新している外国人旅行者が下北に訪れている実感がないのが現状です。また、7月には台湾からの定期便が就航する予定となっており、ターミナルや駅からの二次交通の充実が必要であると考えるが、インバウンドの効果を県内全体に波及させていくために、県はどのように取り組んでいくのか伺いたい。

観光企画課長

インバウンド効果を県内全体に波及させていくためには、県内隅々まで訪れてもらう面的な拡大に加え、年間を通じて訪問していただくこと、さらに、各訪問先での滞在時間を延ばすことが必要であると考えています。

このため、県では、Wi-Fi環境や案内表示の多言語化など、事業者が行う受入環境の改善を促進するとともに、マスマディアやSNS等での情報発信に努めてきたほか、海外旅行エージェントや著名ブロガー、メディア関係者等を招請し、下北地域の仮ヶ浦や三八地域の種差海岸、西北津軽地域の高山稻荷神社など、新たな周遊につながる観光コンテンツのPRも行ってきたところです。

今後も引き続き、二次交通を充実させ、その交通情報をわかりやすく発信するなど、個人旅行客にも対応した受入環境の改善に取り組んでいきます。



写真：常任委員会6月

令和元年7月質問 県内の若者の地元定着について

(背景) 本県の最大の課題の1つが、若者・女性の県外流出です。実に、18歳～22歳の若者が、5年間で進学や就職によって、1万8千人減少しています。本県の高等学校卒業者の県内就職率は、56.7%。これは全国平均の81.1%、東北平均の72.6%と比べて、かなり低い数値です。県内の若者のうち大学生等の県内就職について、県の認識を伺いました。

山本

三村知事の打ち出した攻めの農林水産業や観光戦略によって、農業生産額や県産農林水産品の輸出額、そして県内宿泊者数が増加している一方で、高校生や大学生等の県内就職率はこの5年間で低下している状況にあります。県内大学生等の地元定着の促進における、県はどのような取組をしているのか伺いたい。

商工政策課長

県では、大学生等の県内就職を促進するため、学生と企業のマッチングの場である就職ガイダンスや合同企業説明会を開催しているほか、学生に県内企業の情報を提供する県内就職セミナー等を実施してきました。また、県内企業への理解を深めるため、マスマディアと連携し、県内企業の魅力や、そこで生き生きと働く若手社員の声を新聞やWEB、SNSなど様々な媒体で発信しています。さらには、新たに県内で活躍する女性社員等で構成する「あおもりなでしこ」や企業の採用担当者とともに、一人でも多くの学生に本県で就職していただけるよう取り組んでいるところです。

山本

私は、5月に東京の移住の窓口、青森暮らしサポートセンターに伺いました。5年前から移住者が6倍に増加。それでも83人。県外への若者の流出が1年で千人規模である現状からも、若者、そして女性の県内定着がより一層重要だと感じています。魅力ある仕事づくりとともに、高校生や大学生等に地元企業を知る、そして就職してもらう取り組みによって、まさに本県の若者、女性からも選ばれる青森県の実現に向けて取り組みを進めていただきたい。



写真：常任委員会7月



日々のレポート

大島衆議院議長へ
むつ市宮下市長
との訪問



大間町消防団
観閲式参加



下北ジオパーク
浜奥内海浜清掃



大畠
中型イカ釣り船
出航



東通村野牛
ホタテ視察



下北マルシェ観察



パラリンピック選手
との交流



風間浦村
消防団観閲式



航空自衛隊
大湊分屯基地
盆踊り



佐井村牛滝地区
海の日祭り参加



Facebookで
日々の活動を公開

<https://www.facebook.com/aomori.yamatomo>



青森県議会議員 山本ともや事務所

〒035-0041 青森県むつ市金曲一丁目7番8号 TEL:070-1143-4500 FAX:017-771-4331
E-mail:t7to7m7@gmail.com URL:<https://www.yamamototomoya.net>